

知事との懇談で各代表が訴え 福祉医療給付制度の改善をすすめる会

本紙前号で紹介した5月20日の福祉医療給付制度の改善をすすめる会(和田浩会長)と県知事との懇談の参加者及び知事の発言要旨を以下に掲載した。

和田会長：飯田の健和会病院で小児科をやっている。子ども障がい者の窓口無料化を求める要望書73,947名分をお届けに来た。一旦支払っても後で返ってくるのだからそんなに困ることではないと思っている方も多いが、そのために病院にかかれぬ子どもが実際にはいる。子どもが具合が悪いときにお金の心配なしに病院にかかれること、安心して子育てができる長野県にしていくうえで優先順位の高い課題ではないかと思う。

高橋副会長(新婦人)：2年前にも署名を提出したが今回は窓口無料を実現して欲しいとの声が多くあり、「どうして長野は窓口無料じゃないの」、とか「窓口無料当たり前だよ」とか、「長野県おかしいよね」とまで言う人がたくさんいた。県民の意識が変わってきている。阿部知事が検討するという事に本当に期待している。

鈴木副会長(保険医協会)：ある集会で窓口で払えないお母さん方の話がたくさん出てきた。何か調査ができないかと思い、歯科検診をした後、要請したが治療を受けない子どもの状況を調べた。養護の先生が受診しない理由を回答しているが、その中には後からお金が戻ってくるのは分かっているが、最初にかかるときの何千円かが払えない。だからかからないといった子どももいる。無料にすればどんどん患者が増えるのではないかという話もきくが、そんなことはありえない。病院に楽しそうに行く人はいない。資料には虫歯の多い子が結構いるが、どこかで歯止めをかけ将来の長野県をしょって立つ子どもには健康な体で大人になっていただきたいというのが私たちの願いだ。

障害児をもつ母親から：小学校6年

生の息子は、24時間呼吸器をつけて通学生で学校に通っている。学校の看護師さんは呼吸器管理ができないため私と一緒に通学している。学校に看護師さんが入ってもいいようになったがその費用は実費である。窓口無料についてだが、息子は実家の東京で出産した。実家にいる間は医療費も訪問看護料も窓口で支払うことはなかった。長野県では医療費を一時的に払うことを余儀なくされ、当時肺炎を繰り返していた息子の入院費はまさに自転車操業であった。今でも訪問看護、訪問リハビリなど毎月5、6万円ほどかかり、入院の場合は入院費を一時的に支払っている。毎月それだけのお金と、万一入院があった場合の入院費を確保するのはとても大変なことだ。他に子どもが3人いるが冬場などはインフルエンザなど更に医療費がかかる。戻ってくるからではなく、その場でお金を支払うことが大変だということを知りたい。隣の群馬県でできていることがどうして長野県でできないのか。財政負担問題もわかるが県民のいのちを優先してほしい。私たちは地域で、長野県で暮らしていきたい。

精神障害者の立場から：精神障害者の多くは生活困難者が非常に多い。偏見や誤解も多く就労もなかなかできないのが現状だ。病気の特性があり、働かなくても働かず、収入といっても障害基礎年金と作業場のわずかな工賃で生活している人がほとんどだ。通院、服薬を継続する必要があるが、一般の外来通院は福祉医療に関して市町村で格差がある。窓口負担は大変で2年前に目に注射をしたときには6月に30,940円+レセプト代2,000円、7月に55,069円+レセプト代3,000円、8月に424,55円+レセ

福祉医療費で質疑 県議会6月定例会一般質問から

6月24日の長野県議会の一般質問で、5月20日の福祉医療給付制度の改善をすすめる会(以下「すすめる会」)と県知事懇談に同席した藤岡県議会議員が福祉医療費について質問した。

藤岡議員は、子どもの医療費については37都府県で窓口無料(現物給付)が実現しているが長野県では実施されていないこと、県は国からのペナルティと財政負担問題を理由に拒否するが他県では国から不当な減額をされてもなお窓口無料化を実施しており、群馬県は長野県よりも予算規模が小さくても所得制限も自己負担もない完全窓口無料化を実施しているが何故長野県では実施できないのかと質問した。

阿部知事は福祉医療制度は県ごとに制度設計が様々であり、「現物給付の一点のみを取り上げるのではなくやはり全体で比較しないと手厚さというのは必ずしも比較し得ない」と答えた

が、窓口無料化の検討については明確な答弁は避けた。

次に、藤岡議員はすすめる会との懇談で県職員のような安定した雇用の県民にまで支援が必要かと福祉医療費について所得制限を設けるかのような発言をしていたことを紹介し、所得制限を検討しているかどうか質問した。阿部知事は窓口無料化の要請の中で、「国のペナルティを受けてまで雇用が安定している、或いは高額な所得がある方まで同じような制度を作ることが皆様方のご要望の趣旨なのかということを私は確認したい」と申し上げた。私が所得制限をつけるということについて話をした事実はないと思っています」と所得制限をつける考え方についての発言は否定した。藤岡議員は所得のある方はすでに高い税金や保育料を支払っており、消費税増税や物価上昇の中で更なる負担を求めることがないよう強く要望、最後に子育て支援の目玉政策として子ども医療費の完全窓口無料化を実施した群馬県知事の発言を紹介した。



5月20日県庁で阿部知事に署名を前に福祉医療の改善をすすめる会の構成団体の代表らが訴え

うが良いのか。医療費も全部タダ、交通費も全部タダならハッピーな世の中になるかもしれないが、県民の皆さんからいただいている税金をどう配分するかといった視点で考え

なくてはいけない。県の職員で年収何百万円と職が安定してる人もいる。長野県は子ども医療費は所得制限なしでやっているが、こうした人々に対してはどう考えるのか。所得制限がなしで年収200万円、300万円でもやっているが、それを償還払いを全部なくすのが本当にいいことなのかという私は個人的には迷いがある。今の制度がこうなっていて、その中で税金をどこに重点的に使うのが一番望ましいかといった観点で考えていかないといけない。限られた予算であり、一回拡大すると、ずっと継続的に負担をしていかないといけない。知事が変わったら縮小したということでは安定性が無い話になる。対象を拡大し、負担が軽ければそれは望ましいと思うが、所得制限なしでやっている今の制度を、本当に窓口で払うことが難しい方がいるとすればどうという人なのかといったことを考えていかなければいけないと思う。

ブト代2,500円と3か月続けては払いきれない。福祉医療費の入金された通帳を持参したが本当に苦しい。医療費がかかるので医者にかかるのを躊躇することが全く無いわけではない。こんなことで病気がひどくなったら人権的にも問題だ。多くの障がい者が窓口無料化を望んでいる。

阿部県知事：県としては福祉医療を国の施策としてしっかりと位置づけるようにと話をしてきたが、ぴくともしない状況なので、県と市町村との協議の場で少子化、子育てをテーマに取り上げ、福祉医療の話も市町村と一緒に考えていかなければいけないと思っている。(遅れているというが)長野県の子ども医療費助成は対象としては市町村が頑張ってるおかげでずいぶん広い。(窓口無料といった)支払い方法の話だけではなく本当にどういった制度が良いのか。長野県では所得制限がないが、所得制限をつけたほうが良いのか、所得制限をつけて拡充したほ

意見広告賛同募金にご協力いただきました先生方へ

「長野県でも、子ども・障がい者の医療費を窓口無料に」を主張した意見広告が6月19日付の信濃毎日新聞に掲載されました。

ご賛同いただきました先生方には御礼申し上げます。賛同募金につきましては、7月8日(火)に会費振替口座より引き落としさせていただきます。

長野県保険医協会

長野県でも、子ども・障がい者の医療費を窓口無料にしてください。

10/47 取り残される長野県

なぜ長野県で「窓口無料化」ができるのか?

「検討する」ではなく「決断せよ」

意見広告の広告原簿より(社会面の下5段半通しサイズで掲載)